

道徳の時間に活用する ～規則の尊重～

岩国市立玖珂小学校 森本 理江

1 本場面におけるポイント

- 身近なきまりや公共物を思い浮かべ、日頃の使い方を考えることで、きまりや公共物に対する興味・関心や意識を高める。
- 読み物資料として「わたしたちの道徳」の資料を扱い、資料提示を工夫し場面の状況を理解させ、書くことや役割演技を通して主人公の心情に迫る。
- 終末の場面で、ゲストティーチャーに日頃の様子を聞くことから自分自身の行動を振り返り、「わたしたちの道徳」に書き込んで今後の生活につなげる。

2 授業の実際

- 1 主題名 きまりをまもる 「資料名 黄色いベンチ」
- 2 ねらい 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする態度を養う。
- 3 展開

(1) 導入 みんなが使う物について想起し、使い方を考える。

教師：(公園にあるお願いの看板を見せて) これは何のためにあるのかな？
児童：「公園にあるよ。」「みんなへのお願い。」「大事に使ってねってこと。」「みんなの公園だから。」「みんなが楽しくなるように。」
教師：みんなが使う物ってほかにどんな物があるのかな？
児童：(記入)ブランコ、トイレ、長縄、水道、掃除道具、ボール…
児童：「きまりを守って使っている。」「大切にしないと次の人が使えない。」「約束を守らないと、けんかになる。」「先生に怒られる。」

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等
身近な公園にある看板を見せることで、興味・関心を喚起するとともに、「わたしたちの道徳」のP122に書き込み、いつも使っている身の回りの公共物を思い浮かべることで、ねらいとする価値について考えていこうとする方向付けを図る。



(2) 展開 資料「黄色いベンチ」を読み、話し合う。

教師：ベンチから紙ひこうきを飛ばしている時、たかし君の気持ちは？
児童：「楽しいな。」「もっと飛ばそう。」「よく飛ぶから嬉しいな。」
教師：女の子とおばあさんは楽しいかな？
児童：「服が汚れて嫌な気持ちになった。」「せっかく遊びに来たのに楽しくない。」「誰が汚したんだろうって思っている。」
教師：女の子の服を汚してしまったことがわかった時、たかし君はどう思ったかな？
児童：「どうしよう、ぼくたちのせいだ。」「いけないことをしたな。」「あやまりにしようかな。」



教師：たかし君たちの楽しかった気持ちはどうなったか？

児童：「楽しくなくなった。」「怒られるかとドキドキした。」「もうやりたくない。」

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

- ・パネルシアター風に資料を提示をしながら読み聞かせ、場面の状況を理解しやすいようにする。
- ・たかしとてつおが遊びに夢中になって、周りが見えなくなっていることを押さえ、自分本位の行動が、思いがけず他者に迷惑をかけてしまうことがあるということに気付かせる。
- ・ワークシートに記入し、役割演技を取り入れることで、たかしたちの気持ちに近づくように仕向ける。心情円盤を使い、たかしの楽しい気持ちの変容について考え、自分本位な行動をとるとみんなが楽しくないという二人への共感を深められるようにする。

(3) 終末 みんなが使う物や場所の使い方について考える。

教師：はじめに聞いたみんなを使う物、みんなはどんな風に使っているかな？

児童：「片付けるのを忘れることがあった。」「次の人のことをあまり考えていなかった。」

※周りの人のことを考えて使っていた人を紹介する。

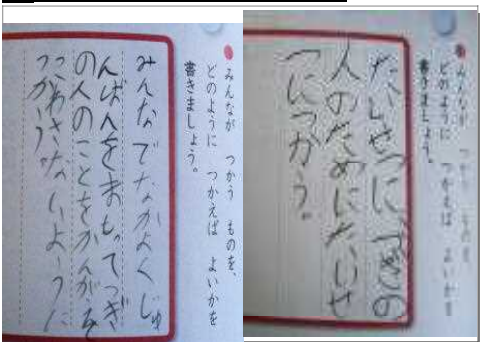
教師：今から、みんなが使う物の中にもあった図書室の先生にお話を聞いてみましょう。

教師：これからどんな風に使おうと思うか、「わたしたちの道徳」に書きましょう。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

- ・日頃の使い方を写真で見せたり、周りの人のことを考えて使っていた人を紹介したりする。
- ・図書室の先生をゲストに招き、みんなの使い方のいいところや直してほしいところ、先生の思いを話してもらう。
- ・「わたしたちの道徳」P123に、今後どのように使おうと思うかを書き込み、物を大切にすることとはどういうことかを考えて、これからの生活に結び付けられるようにする。

3 実践を振り返って



読み物資料「黄色いベンチ」は、身近に起こりやすい場面であり、状況把握がしやすい。また、きまりをきちんと守ろうとする児童が多い低学年で、「きまりだから。」とか「叱られるから。」という他律的な考えだけではなく、周りの人が気持ちよく過ごせるために相手のことを自律的に考えて行動する意識を育てていく上で、適切な資料であると思われる。

振り返りで「わたしたちの道徳」に書いたことを紹介し、これからの生活の中で、きまりを守り、周りの人のことを意識する気持ちをもつことはできた。この学習の中だけで終わるのではなく、身勝手な行動をとる傾向がある低学年のこの時期にこそ、「規律の尊重」に関する題材を計画的に取り上げていく必要があると感じている。